

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年3月4日(2010.3.4)

【公表番号】特表2006-503618(P2006-503618A)

【公表日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-005

【出願番号】特願2004-543878(P2004-543878)

【国際特許分類】

A 6 1 B 1/24 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 1/24

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年1月14日(2010.1.14)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

患者の口腔内で歯科処置を行なうための、コードレスな歯科用ミラーアセンブリであって、

前記ミラーアセンブリが、ハンドル部とヘッド部とを有してなり、

前記ヘッド部が、

ステーターと回転駆動磁石とを含む電氣的ブラシレスモーターを内包するハウジングと

、

ローターシャフトと、該ローターシャフトに取付けられた、回転プレートと、前記回転駆動磁石とを含むローターアセンブリと、

上部に反射面を有し、磁性ディスクまたは強磁性ディスクからなる、実質的に平面的な第 2 部材と、

前記第 2 部材の磁性ディスクまたは強磁性ディスクと、前記ローターアセンブリに取り付けられた磁石部品とを有すると共に、前記ローターアセンブリに対して前記第 2 部材を着脱自在に取付けるための取付部材とを含み、該取付部材は前記第 2 部材とともに回転し

、

前記ハンドル部が、前記ブラシレスモーターにエネルギーを供給するためのバッテリーを内包することを特徴とするミラーアセンブリ。

【請求項 2】

少なくとも 2 つの玉軸受を含み、前記ハウジングに対する前記ローターアセンブリの相対的回転のために前記ハウジングに対して前記ローターアセンブリを支持するための軸受手段をさらに有することを特徴とする請求項 2 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 3】

前記磁石部品が前記ハウジング上に配置されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 4】

前記磁石部品が電磁石であることを特徴とする請求項 3 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 5】

前記軸受手段が、少なくとも 1 つのバネ座金を含み、前記少なくとも 1 つのバネ座金が前記少なくとも 2 つの玉軸受間に配置され、前記少なくとも 2 つの玉軸受を互いから軸方

向に離隔させることを特徴とする請求項 2 から 4 のいずれか 1 項に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 6】

前記ミラーの作業域を照らすための少なくとも 1 つの光源をさらに含み、前記作業域が前記反射面から 0 . 5 ~ 5 c m 延びることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 7】

前記少なくとも 1 つの光源が、前記ヘッド部に対する第 1 の位置と前記ヘッド部に対する第 2 の位置との間で可動式であり、第 1 および第 2 の位置の各々が照明軸の両側で光照射野を規定し、各照明軸が互いに対して角度を成していることを特徴とする請求項 6 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 8】

少なくとも 2 つの独立した光源を含み、各光源が照明軸の両側で光照射野を有し、前記照明軸が互いに対して角度を成していることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 9】

前記照明軸間の角度が少なくとも 4 5 ° であることを特徴とする請求項 8 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 10】

前記照明軸間の角度が少なくとも 9 0 ° であることを特徴とする請求項 9 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 11】

前記独立した光源の機能を 1 つずつ選択するためのスイッチ手段をさらに含むことを特徴とする請求項 9 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 12】

前記光源が L E D であることを特徴とする請求項 11 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 13】

前記 L E D を冷却するための前記ハンドル部内に位置する冷却手段をさらに含むことを特徴とする請求項 12 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 14】

前記 L E D を冷却するための前記ハンドル部内に位置する冷却手段をさらに含み、前記冷却手段がヒートパイプを含むことを特徴とする請求項 12 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 15】

前記ハウジングがベース部およびキャップ部を含むことを特徴とする請求項 1 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 16】

前記キャップ部が前記ベースに密閉され、前記ハンドルに連通している密閉室をその間に作成することを特徴とする請求項 15 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 17】

前記第 2 部材が平面と、前記平面に従属する第 1 の円筒壁面とを含み、前記円筒壁が第 1 の直径を有することを特徴とする請求項 15 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 18】

前記ハウジングが、前記ベース部から離れる方向に延びる第 2 の円筒壁を含み、前記第 2 の円筒壁が第 2 の直径を有することを特徴とする請求項 15 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 19】

前記第 1 の直径が前記第 2 の直径よりも小さく、前記第 1 の円筒壁が前期第 2 の円筒壁内に嵌め込まれるようになっていることを特徴とする請求項 18 に記載のミラーアセンブリ。

【請求項 20】

前記第２部材の前記平面が前記反射面であることを特徴とする請求項１７に記載のミラーアセンブリ。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００３２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００３２】

図４および図５は、ローターアセンブリ３０および第２部材１８の取付部材の別の実施形態を示す。図４および図５では、磁石部品４２がローターアセンブリ３０に取付けられている。図４および図５に示されている実施形態は、結果としてわずかに重いローターをもたらす。この追加の重量は、わずかに高いモーター出力を必要としうる。図４の実施形態においては、第２部材は実質的に図２に示されているものとほぼ同じである。図５では、第２部材１８は、図２に示されているように下方従属壁７０を有さない実質的に平面的な部材である。この場合、第２部材１８は、磁性または強磁性ディスクで製造され、その上面層に付着または接着したミラー層を有する。しかし、図５に示されている第２部材１８の利点は、従属壁７０を生成する必要なしに、第２部材は比較的安価に製造されうることである。

【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００３３

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００３３】

図６および図７は、第２部材１８の他の実施形態を示す。図６では、反射面２０は第２部材１８を形成する材料の上部に直接付着されているが、図７では、反射面２０は、最初に第２部材１８の残りから分離し、反射面の生成後にそれに結合されるガラス、プラスチック、または金属で製造されうる基材２１上に付着されている。

【誤訳訂正４】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００５２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００５２】

かかる機械的接続が図１４に示されている。図１４では、ローターシャフト２５０は中空であり、ネジ山２５３を含有する中央軸穴２５１を含有する。第２部材２１８は、雄ネジ２５７を有するシャフト２５５を含む。シャフト２５５は、シャフト２５５のネジ山２５７とともに中空シャフト２５０へ挿入され、シャフト２５０の雌ネジ２５３に係合できる。この場合、第２部材２１８は略平面を含み、これに反射面が取付けられている。反射面は付着によって取付けられ、もしくはシャフト２５５に取付けられた平面に接着または付着された別個の基材であり、または反射面は研磨され、もしくは他の様式で平面上に直接生成してもよい。

【誤訳訂正５】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図２

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図 2】

